

資料コーナー

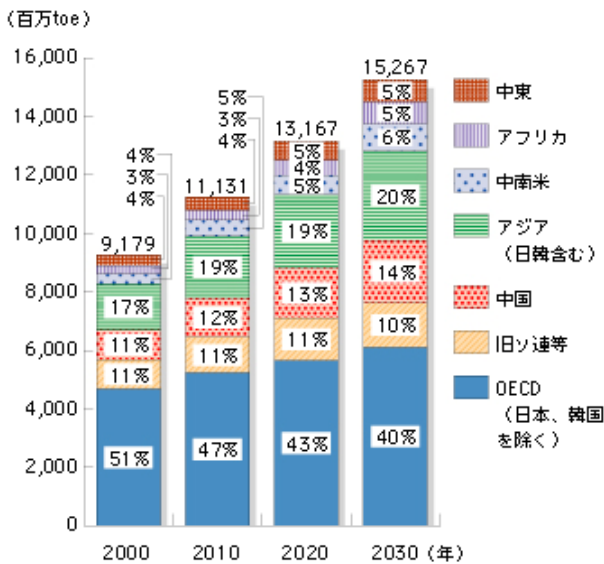
世界のエネルギー需要見通し

出典：資源エネルギー庁ホームページ/エネルギー・資源を取り巻く情勢

(<http://www.enecho.meti.go.jp/energy/world/world01.htm>) より抜粋

今後も世界の一次エネルギー供給は、経済成長とともに着実に増大すると予測されている。国際エネルギー機関（IEA）の見通しによれば、2030年の世界の一次エネルギー供給は、152.7億石油換算トン（TOE）（2000年比で66%増）に達すると予測されている。

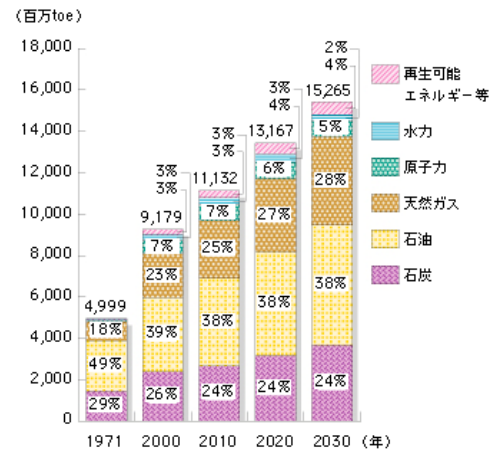
地域別に見ると、アジア地域のエネルギー需要の増大が予測されている。先進地域における2000～2030年の年平均増加率が1.0%にとどまるのに対し、アジアを中心とする開発途上地域では2.9%とほぼ3倍の増加率が予測されている。



資料：IEA「World Energy Outlook 2002」

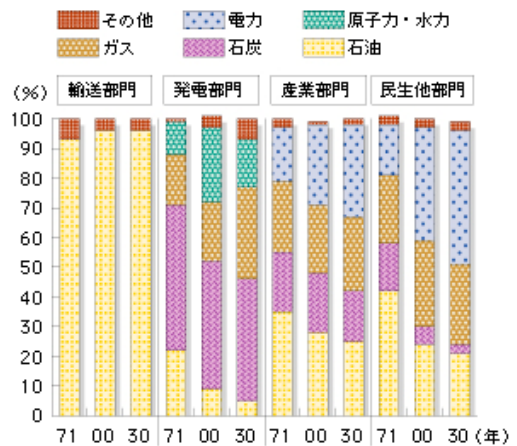
OECDは「Organization for Economic Cooperation and Development：経済協力開発機構」の略で、ヨーロッパ諸国を中心に日・米を含め30ヶ国の先進国が加盟する国際機関である。

エネルギー源別に見ると、主力エネルギー源の中で最大の伸びを示すのは天然ガスで、今後30年間で平均2.4%増加すると見られている。一方、石炭、原子力は低めの需要増加が想定されている。



資料：IEA「World Energy Outlook 2002」

部門別にエネルギー源を見た場合、交通部門においては、依然として、石油が9割以上のシェアを持つと予測されている。発電部門においては、石油の割合は現状から半減の4%程度にまで落ち込む一方で天然ガスの割合が大幅に増加し、31%に達すると予測されている。また、産業部門、民生部門では電力のシェアが増大すると予測されている。



資料：IEA「World Energy Outlook 2002」

高橋 康文〔(株)日立製作所〕
（平成17年9月21日受付）